

インタープリテーションの方程式

アメリカの国立公園局(NPS)には以下のような、インタープリテーションを効果的に行うためのポイントを整理した方程式(Equation)がある。

$$(KR + KP) \times AT = IO$$

- KR (Knowledge of Resource) : 資源の知識
- KP (Knowledge of Participant) : 参加者理解
- AT (Appropriate Technique) : 適切な手法
- IO (Interpretation Opportunity) : インタープリテーションの機会

要点を捉えたよいまとめ方だと思うが、よくよく考えてみると、「ねらいの理解」という要素が直接的に表現されていないことに気づく。インタープリテーション・プログラムを計画する際に、「ねらいを明確にする」「ねらいを絞り込む」など、「ねらいの設定」は極めて重要であるはずなのに、どうして表現されていないのだろうか。「資源の理解」という所に「ねらいを明確にする」という要素が含まれているのか、あるいは「国立公園局全体のねらい」はすでに明瞭なので、方程式には敢えて表現されてこないのか、いろいろと推察してみるが、細かい所が気になる日本人としては、どうしても「ねらい」の要素を加えたくなった。そこで、上記の方程式にねらい要素を加えて、以下のような方程式を作ってみた。

$$\begin{pmatrix} K & P \\ + \\ D & A \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} K & R \\ + \\ A & T \end{pmatrix} = IP$$

DA (Definition of Aim) : ねらいの明確化

別に英語で表記する必要はないので、日本語で表現すると以下になるだろう。

$$\begin{pmatrix} \text{参加者理解} \\ + \\ \text{ねらいの明確化} \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} \text{資源の理解} \\ + \\ \text{適切な伝え方} \end{pmatrix} = \text{インタープリテーション}$$

ここでいう「参加者理解」とは、参加者がどのような人か(属性:年齢・経験など)ということもあるが、参加者のニーズを把握することも大切だ。さらに、参加者(人)がどのように物事を理解し、価値観や行動を変えるのか、といった認知に関する理解も必要になるだろう。「ねらいの明確化」には、行為目標と成果目標がきちんと分けて設定されることやTGO(主題・目的:ゴール・目標:オブジェクトイブ)が設定されること、さらに大きすぎない現実的・実際のな目的や目標、という認識も必要だ。「資源の理解」には、素材自体の理解に加えて裏ねらい(本質的なねらいと表現したらいいだろうか)の意識=素材に含まれる環境教育的な意味や価値(その素材を使ってどんなことが伝えられるか)の理解が必要になる。そして「適切な伝え方」では、単にプログラムやコミュニケーション的な意味にとどまらず、参加者の理解に基づく、本当の意味で「解った」となる認知、あるいは価値観や行動を変革させることにつながる理解をもたらす伝え方が実践される必要があるのだろう。いかがでしょうか?結構よくできている、とうめぼれているのですが…。

発行: 東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村ビジターセンター 〒198-0225 東京都西多摩郡奥多摩町川野 1740 TEL: 0428-86-2551 FAX: 0428-86-2316 E-mail: yamafuru@hkr.ne.jp URL: http://www.yamafuru.com 企画・編集: 自然教育研究センター 2012年7月発行	< 編集後記 > 「ヨモギをささしや、あつけをしねえど」。炎天下の畑で村のおばあに教えてもらいました。なんでもヨモギを背中に挟んでおくと熱中症にならないんだとか。昔から受け継がれる暑さを乗りきるための知恵。みなさんの周りにも、そんな知恵はありますか?(中村)
--	--